

『かすかべの宝ものⅧ』展示ガイド(展示資料一覧)

展示期間 平成22年(2010)5月15日(土)～7月4日(日)

展示資料総数	実物・パネル	計88点
実物資料		80点
資料写真		7点
図・表		1点

ごあいさつ

平成2年7月の開館以来、春日部市郷土資料館では市民の皆さまのご協力をいただきまして、今日まで郷土にかかわるさまざまな資料を調査・収集しております。

皆さまからご寄贈・ご寄託を受けました資料は、郷土資料館でクリーニングを行い、展示や講座、学術調査などで活用できるよう、順次整理作業を進めております。しかしながら、これまで収集いたしました郷土の資料は膨大な数にのぼり、いまだ整理が手つかずのものも少なくありません。

郷土資料館では、小さな空間ではありますが、わずかずつでも収蔵品を紹介したいと考え、今年度は、前年度より収蔵・保管しております品々を紹介したく、今年度も収蔵品展を開催することとなりました。

今年度は、市指定無形民俗文化財の榎囃子神楽や昭和の医療器具のほか、さまざま分野の収蔵品が展示されています。

ご観覧の皆様には、これらの品々から春日部市の歴史を感じ取っていただきたいと存じます。

平成22年5月
春日部市郷土資料館

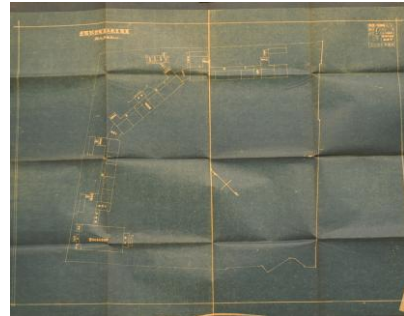
1, 榎囃子神楽～芝居の台本～

榎の囃子神楽は、江戸時代の中ごろ正徳年間(1711～1716)に、病気退散と五穀豊穡を祈願してお囃子が演奏されるようになり、明治時代にお神楽が演じられるようになったといわれています。今回、お神楽で上演される芝居の台本を展示しました。手製の装束や道具をまとして、なつの祭礼で演じられます。市指定の無形民俗文化財です。

- 1 大正 14 年 9 月 (1925) そがのたいめんのは 曾我之対面之場
- 2 大正 9 年 8 月 (1920) ごじんだい かぐら らぎつしよ 御神代(神)楽雑書
- 3 大正 14 年 9 月 (1925) 曾我の夜討ち
- 4 大正 15 年 10 月 (1926) おぐりはんがみやはぎきんじょうたかくらやかたのだん 小栗判官矢掬三条高倉館之段
- 5 大正 12 年 3 月 (1923) げんべいじんもんいちのたにいちだんめ 源平陣門壹之谷壹段目
- 6 大正 13 年 10 月 (1924) いちのたにくみうちまがいのぼくまがいじろうなおぎねのげんだいにだんめ 壹之谷組討之場熊ヶ谷次郎直実ノ言第貳段目
- 7 大正 13 年 10 月 (1924) てるてひめ よろずや 照手姫 万屋のこん
- 8 平成 21 年 榎囃子神楽 写真パネル 2 点



1-3, 5, 6



2-7

2, 学校～粕壁小学校木造校舎と卒業証書

昭和 14 年(1939)築の粕壁小学校木造校舎の新築設計図と建築関係の書類です。県内では草加小学校(国の登録有形文化財・草加市)などの設計を手がけた、大川建築事務所の設計です。写真は昭和 63 年(1988)に教育センターの建築により、解体されたときに記録用に撮影されたものです。また、昭和 10 年前後の卒業証書や賞状、裁縫帳は、川辺尋常高等小学校(現川辺小学校)・粕壁高等女学校(現春日部女子高校)のものです。

- 1 昭和 62 年 4 月～昭和 63 年 6 月 (1987～1988) 市有建物等解体工事(粕壁小学校木造校舎) 写真
- 2 昭和 11 年 7 月 (1936) 粕壁小学校建築関係綴 春日部市教育委員会施設課移管
- 3(昭和 10 年 5 月～昭和 14 年 3 月) (1935～1939) 粕壁高等女学校裁縫帳さいほうちょう
- 4 昭和 12 年 3 月 (1937) 粕壁高等女学校精勤賞せいきんしょう
- 5 昭和 6 年 3 月 (1931) 川辺尋常高等小学校皆勤賞かわべじんじょうこうとうしょうがっこう
- 6 昭和 10 年 3 月 (1935) 川辺尋常高等小学校卒業証書
- 7 昭和 62 年 粕壁小学校木造校舎 写真パネル 4 点

3, 南桜井消防団

旧南桜井村(明治22年～昭和29年)の消防団第一分団で使われた消防道具です。団旗と消防帽、類焼を防ぐため家屋を取り壊す鳶です。現群馬県藤岡市で使われた、江戸時代の火消しが纏った半纏と頭巾を参考として展示しました。

- 1 火消し半纏ほんてん
- 2 火消し頭巾ずきん
- 3 鳶とび 永沼地区自治会寄贈
- 4(昭和前期) 南桜井消防団消防帽 永沼地区自治会寄贈
- 5(昭和前期) 南桜井消防団第一分団 消防団旗 永沼地区自治会寄贈

4, 村の医療

医療用具や薬品ダンスなどは備後の石川医院で使われたものです。石川医院は5代続いている医家で、初代良齋は江戸時代末期の人でした。

江戸時代には、病は厄病神や邪気をもたらすものと一般的に考えられていました。疱瘡神の誤り証文は、この証文を掲げている家には疱瘡(天然痘)をもたらさないと疱瘡神が約束したものです。幕末に西洋医学が輸入され、種痘が行われるようになります。ここでは、大正～昭和前期の幸松村(明治22年～昭和29年)の種痘済みの証書を展示しました。病早わかりは、新宿新田の医者八迷種明(やまいたねあき)が発行したもので、病因や治療を記したのではなく、病気にかからない生活上の心得を記しています。

- 1(近世) 疱瘡神五人誤り証文事ほうそうかみごにんあやまりしょうもんのこと
- 2(近代) 川辺村新宿新田八迷種明 病早わかりかわべむらしんしゅくしんてんやまいたねあし やまいはや
- 3 昭和9年4月(1934) 幸松村 第一期種痘済証しゅとうずみしょう
- 4 大正8年4月(1919) 幸松村 第一期種痘済証
- 5 昭和4年5月(1929) 幸松村 第一期種痘済証
- 6 昭和12年4月(1937) 幸松村 第二期種痘済証
- 7 ISHIDA 製天秤
- 8 分銅ケース(木製)
- 9 分銅ケース(木製)
- 10 分銅ケース(プラスチック製)
- 11 タイマー
- 12 点滴台てんてきだい
- 13(昭和) カルテ収納棚
- 14 薬品棚
- 15 看板
- 16 診察用具入
- 17 タイマー
- 18 煮沸消毒器しゃふつしょうどくき



3-4



4-15

5, 出征兵士の軍装

昭和18年(1943)、アジア太平洋戦争でインドネシアのスマトラ島へ出征した方の軍需品です。昭和17年に徴兵検査に合格し、翌年4月に召集され、9月に久里浜から東南アジアへと向かいました。

昭和20年現地で終戦を向かえ、昭和21年11月に復員しました。南方の軍装ですが、寒冷地用の防寒服も支給されています。徴兵配属札は、幸松村の方のものです。

- | | |
|----------------|--|
| 1 (昭和) | ^{ちようへいはいぞくふだ} 徴兵配属札・ ^{こうきかんへい} 甲機関兵第五番 |
| 2(昭和) | 徴兵配属札・ ^{おつしゅしちようゆそつ} 第二乙種輜重輸卒第四番 |
| 3 昭和18年(1943) | ^{しゅうばんわんしやう} 週番腕章 |
| 4 昭和18年(1943) | 竹製のお弁当箱 |
| 5 昭和18年(1943) | 軍用防寒服(フード) |
| 6 昭和18年(1943) | 巻ゲートル |
| 7 昭和18年(1943) | ^{ざつのう} 雑嚢 |
| 8 昭和18年(1943) | 半袖の軍服(南方用) |
| 9 昭和18年(1943) | ^{かわきまはん} 皮脚絆 |
| 10 昭和18年(1943) | 水筒 |
| 11 昭和18年(1943) | 飯ごう |
| 12 昭和18年(1943) | 軍服 |
| 13 昭和18年(1943) | 入隊記念の日章旗(「祝入営 ^{ぶうんちやうきゆう} 武運長久」) |
| 14 昭和18年(1943) | 初期型 略帽 |
| 15 昭和18年(1943) | 軍靴 |
| 16 (昭和) | 戦意高揚の絵と文字が入った湯のみ |
| 17 (昭和) | 戦意高揚の絵と文字が入った湯のみ |

6, 民間信仰～富士講～

江戸時代後半には、人々のさまざま願いをかなえる庶民信仰が盛んになりました。富士講は、富士山を信仰の対象とする人々の集まりで、神社の一角に小山を築いて富士山に見立てる富士塚は市内各地に現存しています。富士山へ登り参拝することもありました。展示しているには、東中野の富士講の世話人と思われる家の資料です。富士山の祭神である木花開耶姫命の掛軸、祈願を記した祝詞、登排用の金剛杖などです。なお、埼玉県立歴史と民俗の博物館(さいたま市)には、西宝珠花に本拠のあった富士講の一派(丸宝講)の絵馬があります。富士登排やお伊勢参りなど寺社参詣が盛んになると、各種の旅行ガイドや案内図が多く印刷されるようになりました。

- 1 ごちゅうどうたいぎょうごでんしょ
御中道大行御伝書
- 2 伝書が納められていた桐箱
- 3 文久2 成年正月 (1862) ごぜんぼこ
御前箱
- 4 きのはなさくやひめのみこと
富士山木花開耶姫命神画像
- 5 (寛政) かんせいしんこく 寛政新刻 はやみどうちゅうき 早見道中記温泉道しるべ



5-13



6-4

7, さまざまな道具～農具・商売・暮らし～

農業や商売、生活に使われた道具は、使用済みになると破棄され、顧みられなくなります。しかし、先祖も含めた私たちの命や暮らしを支えたのは、そうした道具たちです。ここでは、米島の酒屋の資料、八丁目の農家の農具、および個人宅で使われた民具を展示します。民具は、明治生まれの方が使用していた品々で、中には修理された釜などもあり、大切に使われていたことがわかります。

- 1 (昭和) まんごくふるい
万石篩
- 2 (昭和) いっとます
一斗枡
- 3 昭和47年6月 (1972) こうりにん
塩小売人指示事項ならびに営業心得
- 4 昭和45年4月～昭和48年3月 (1970～1973) しおがいけひょう 塩買受票の綴 つづり
- 5 商店用提げ袋
- 6 昭和47年1月 (1972) ポケットティッシュ
- 7 マッチ 黄桜

- 8 マッチ 本みりん
- 9 伝票整理箱
- 10 (明治末) いちごます 一合枳
- 11 (明治末) 五合枳
- 12 (明治末) 釜の蓋
- 13 (明治末) 煮鍋
- 14 (明治末) ^{いかけや} 鑄掛屋が補修した釜

8, 村の絵師～絵と建具の手本～

西親野井に住んでいた方の、珍しい地元の絵師や大工の資料です。絵師といっても、お祭りで飾られた地口行燈に描くような、地元に着した絵師だったようです。主に明治～大正期に竹次郎は、正明寺(現杉戸町)の格天井などの作品を残しています。絵や建具の手本・見本が多く伝えられており、明治34年(1901)の伊勢神宮の記念である奉納絵馬の下絵も伝えられています。

- 1 ^{じぐちえてほん} 地口絵手本 ^{しょへん} 初編
- 2 明治34年5月(1901) ^{ほうのうまましたう} 奉納絵馬下絵 (伊勢太々神楽) ^{いせだいだいかぐら}
- 3 安政3年丙辰(1856) ^{しんせんはやびき} 新選早引 ^{しょうかひながた} 匠家雛形二編
- 4 明治9年4月(1876) ^{たてぐひながた} 建具雛形 ^{こん} 坤
- 5 ^{けいたい} 携帯用の測定器
- 6 (昭和10年)(1935) ^{たからばし} 宝橋十周年記念写真
(飾り系)
- 1 (平成) ^{じょうしゅう} 上州の水車小屋模型
- 2 昭和15年(1940) ^{きげん} 紀元二千六百年奉祝記念写真帳 ^{ほうしゅく}
- 3 大正15年5月(1926) 絵はがき(神田神社大祭記念写真)
- 4 (昭和) ^{じょうとうしき} 上棟式の祭具 ^{さいぐ}
- 5 (近世) ^{にくら} 牛の荷鞍
- 6 春日部市年表 パネル

8-6

